

# 地震国日本で原発は安全であり得るか？ なぜ再生エネルギーに踏み切れないのか？

日本では古来、地震、火山、津波が頻繁に生じてきました。私たちは未だ、これらを制御する術を知りません。先祖はこれらと共存する賢い道を選んできました。しかし 50 年位前から私たちは、科学技術の力を過信し、日本全国に50基を越える原発を作り、それから出る電気に依存する生活を享受してきました。2011年3月のフクシマ原発事故は、そうした姿勢の脆弱さを見せつけました。今一度私たちは、どんな地盤の上に立っているのかを、地球科学の最先端の知見から見直してみたいと思います。また、原発に代わるものとして再生エネルギーが注目され、ドイツではとつくにそちらに舵を切ったのに、日本ではできていません。何が原因なのでしょう、一緒に考えてみたいと思います。

2019年 1月13日(日)16:00~14日(月・祝)16:00

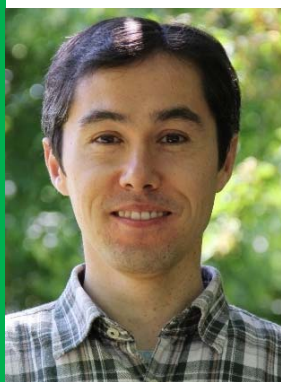
## 日本の原発と地震・津波・火山



### 竹本 修三 (京都大学名誉教授)

固体地球物理学・測地学を専門とする私は、地震国ニッポンにおいて原発稼働はとても無理だと考えています。世界地図の上に日本列島に起こるマグニチュード4以上の地震を20年間プロットすると、日本列島の島影は見えなくなってしまいます。次のマグニチュード6以上の地震が日本の何処で何時起こるかは、全く予測できません。こんなニッポンに、50基超の原子炉が設置されたのは、世界的に見ても異常です。一日も早くすべてを廃炉にしなければなりません。2014年2月19日の京都地裁における第3回口頭弁論で、元滋賀大学学長の宮本憲一さんは、「2011年の福島第一原発災害は、足尾鉍毒事件や水俣病などの深刻な公害事件をはるかに超える史上最大・最悪の公害である」と述べています。福島第一原発の事故は例外ではなく、すべての原発が同様の危険性をはらんでいます。子や孫の世代に負債を残さないために、すべての原発稼働を止めなければなりません。

## ドイツのエネルギー転換の思想と実践



### 木村 護郎クリストフ (上智大学外国語学部ドイツ語科教授)

福島第一原発事故に世界で一番強く反応した国は日本ではなく、なぜかドイツでした。「脱原発」や「再生可能エネルギー」はドイツ抜きには語れません。日本でエネルギー問題を扱う書籍や記事などでは、必ずと言っていいほどドイツのエネルギー転換に言及されます。ただしその評価は大きく分かれています。脱原発を進めようとする側からは、ドイツは見習うべき先進的な成功例として、一方、原発推進側からは、真似をしてはならない失敗例としてあげられます。しかしそもそもなぜドイツは脱原発を含むエネルギー転換という大きな課題に国をあげて向かうことになったのでしょうか。また現在、その進展はどうなっているのでしょうか。ドイツのエネルギー転換の背後にある社会状況や思想、現状や展望についての素材を提供し、一緒に考える機会にしたいと思います。

《会場・宿泊》 関西セミナーハウス 修学院きらら山荘 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23 TEL:075-711-2115 〈地図裏面〉

《参加費》 一般 14,200 円、学生 5,200 円 〈宿泊3食込、京都市宿泊税 200 円含む〉

**竹本 修三** たけもと しゅうぞう (京都大学名誉教授)

1942年5月埼玉県秩父市生まれ、県立熊谷高校を卒業するまで、山に囲まれた秩父に住む。1961年4月京大理学部入学時、南以外の三方が山に囲まれている京都の地形にも、安心感を覚えた。1965年3月理学部地球物理学科卒業後、宇治市の京大防災研究所に入所。伸縮計や傾斜計を用いた地殻変動の研究に従事。最初の仕事が、関西電力が福井県美浜町に設置を計画していた美浜原発建設予定地の地盤調査であったが、それ以後、原発の『安全神話』を疑ってみることもせず、化石燃料の乏しいわが国においては、膨大な電力重要を賄うために、原発依存もやむなしかと漠然と思っていた。ところが2011年3月11日に福島第一原発の重大事故に直面し、自分の専門分野から、地震国ニッポンにおいて原発稼働はとて無理スジだと強く思うに至る。以来、原発ゼロをめざす城陽の会の代表や大飯原発差止京都訴訟の原告団長を引き受けている。

**木村 護郎** クリストフ きむら ごろうくりすとふ

(上智大学外国語学部ドイツ語科教授、同大学院国際関係論専攻主任)

1974年名古屋市生まれ。一橋大学大学院博士課程修了。博士(学術)。社会を形成・運営する基盤としての言語とエネルギーについて、主にドイツと日本に関して研究・教育・実践活動を行う。福島第一原発事故を受けて、社会的・倫理的観点から、原発・エネルギー問題に関する日独比較に取り組むほか、エネルギー転換を進めるNPO法人のアドバイザーなども務める。キリスト教界の環境問題との向き合い方が重点テーマの一つ。

関連の共編・共著に『今こそ原発の廃止を 日本のカトリック教会の問いかけ』(カトリック中央協議会)、『原発とキリスト教 私たちはこう考える』(新教出版社)、『ドイツとスイスから考える環境・エネルギー問題へのアプローチ』(上智大学ヨーロッパ研究所)など。

- \* 多数の方が参加して下さることを期待しております。参加して下さる方は、1月9日までに下の参加申込書をFaxでお送りください。電子メール、電話、ウェブサイトフォームでも受け付けます。
- \* できるだけ全日程ご参加ください。やむを得ない場合は、部分参加でも結構です。部分参加の会費は事務局にお尋ね下さい。
- \* 宿泊は、2~3名の相部屋が原則ですが、2,100円の追加料金でシングル利用もご準備できます。
- \* お申込みには、電子メールか電話で受け付けのお知らせを致します。申込み後2~3日経っても返信が無い場合は、お電話などでお問い合わせ下さい。
- \* 前日正午以後のキャンセル、変更には、キャンセル料金が発生します。

**公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー  
関西セミナーハウス活動センター**

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23

<http://www.academy-kansai.org>

電話 075-711-2117

FAX 075-701-5256

電子メール office@academy-kansai.org

運営委員長 小久保 正

所長代行 榎本 栄次

担当 都木(とき)



\* 地下鉄烏丸線松ヶ崎駅、叡山電鉄修学院駅までワゴン車で送迎いたします。定員がありますので、ご希望の方は予めお知らせ下さい。地下鉄の最寄駅は松ヶ崎駅ですが、北山駅のほうがタクシーを拾いやすいです。

**2018年度 修学院フォーラム「エネルギーを考える」第7回 参加申込書**

(フリガナ) 名前	(男・女)	所属
〒 住所	電話・携帯 ( ) - FAX ( ) -	
電子メール:	@	
◎参加形態	1. 全日程参加 2. 部分参加 ( )から( )まで	
◎宿泊室	1. 相部屋でよい 2. 個室希望 3. その他ご希望 ( )	